

体育科学習指導案

平成27年11月27日(金)

第5校時 体育館

6年 松組 指導者 井口智恵子

授業の視点

チームで立てた作戦をタスクで繰り返し練習したことは、ボールの方向に素早く反応しボールを打ち返す技能(アタック)の向上に効果的であったか。

I 単元名 ボール運動 ネット型 【 プレルボール 】

1. 児童の実態

本学級は、男子20名 女子12名 計32名で構成されている。

男子が多く元気な学級であるが、男子の中には、休み時間や放課後など自分から進んで外遊びをする児童が少ない。女子に於いては、学校にいる間、ほぼ全員が教室や校舎内で過ごしている。授業以外で、自分から進んで運動することが少ないと言える。

【関心・意欲・態度】

	はい	どちらでもない	いいえ
1. 体育は好きですか。	30	0	2
2. みんなで行う運動と個人で行う運動はどちらが好きですか。	(みんな) 24	2	(個人) 5
3. プレルボールを知っていますか	0	0	32

1. 体育の学習が好きな理由は・・・
- 1) 体を動かすことが楽しい
 - 2) みんなで一緒にできる
 - 3) 記録が伸びると嬉しい

*理由をみると、授業の中では楽しさを味わうことができているようである。

2. 個人が好きな理由は・・・
- 1) 人に迷惑をかけたくないから
 - 2) 自分の記録が伸びると嬉しいから
 - 3) 意見を聞いてもらえない

みんなとが好きな理由・・・

- 1) みんなでやる方が楽しく感じる

- 2) 相談しながらやると分からないことも教えてもらえる
- 3) ゲームが多いから楽しい

*今までの授業で、自分の記録にこだわったり、グループ編成等が上手いかず自己肯定感の高まりを感じられなかったりしたことがあったと考えられる。

3. プレルボールとは、どんなスポーツだと思うか

- 1) 柔らかいボールでするスポーツ
- 2) ボールを落とさないで相手のコートに返す(バレーボールと同じをむ)
- 3) ボールを打ち返す

【思考・判断】

これまでの授業では、自分の記録をのばすために、自分の課題にあった適切な練習方法を選択することはあまりよくできなかった。「みんなと同じことをする」「となりと同じようにすればいい」という児童が多い。

アンケートでは、チームごとに作戦を立てたり、練習を工夫したりすることがあまり好きでないと答えた児童は、学級の半分にあたる18人であった。好きと回答しなかった理由として、「意見を受け入れてもらえない」「話し合いに時間が掛かる」「意見を考えられない」等の理由があった。

【技 能】

(今までの学習の様子から) ボールを投げたり取ったりするときの予備動作のできない児童が多い。体重を体の後ろ側に乗せているため、動こうとしてから一拍遅れるようになり、慌ててボールに追いつこうとしたように見えたり、リズムが取れなかったりしていた。また、ボールの落下点に上手に入ることができない児童も多い。ボールキャッチも、体の正面にボールが入ってくれば、上手く捕球することができるが、ボールの正面に体を移動し捕球することを不得手としている児童が多い。ボール投げる時には、肩関節を動かさず、ボールを押し出すように投げる児童が多い。ボールをこぶしで打つため、ボールの行方が定まらない。さらに、腕の振り抜き動作ができない児童が目立つ。

2. 教 材 観

本単元は、学習指導要領「体育 第5学年及び第6学年 内容 E ボール運動 イーネット型」にあたるものである。

プレルボールは、バレーボールに似たネット型のゲームで、ボールをこぶし又は前腕で打ち返すゲームである。ボールをプレルする時は、必ずワンバウンドさせて、決められた回数で相手コートに返球しながら、得点を競うゲームである。ネット型のゲームは、ネットを挟むことにより攻守がはっきりと分離するため、チームで協力して立てた作戦を実践しやすいという特徴もある。また、ネット型は接触プレーがないことも、誰もが安心して運動することができるものである。

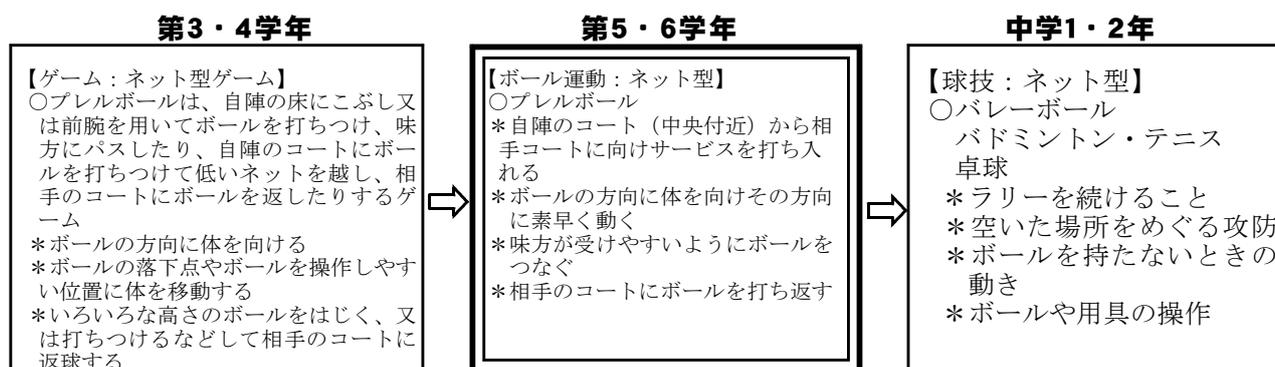
プレルボールとソフトバレーボールの大きな違いは、ボールを床に落下させてよいか否かである。プレルボールは、ボールを床にワンバウンドさせることから、落下地点に入ることが苦手なであっても、ボールに触れるまでの時間が長く、容易にボールに触れることができるようになると考えられる。また、一人一回ボール操作をするという役割が決まっていることで、ゲームが得意でない児童も、ゲームに参加でき、動くことの楽しさを味わうことができる運動である。

ゲームを成立させるために必要な技能として、ボールをキャッチする動作、ボールを打つ動作(プレル・アタック)、スペースの移動などが挙げられる。本学級の児童の実態からみると、どれもが苦手という児童が多いことから、単元全体を通して個人技能の習得が重要になる。また、攻撃の仕方も大切なポイントになってくる。そこで、単元を通して、ドリル(個人技の習得)→タスク(チーム戦術の練習)→メインゲーム(練習の実践)という順序で行うことは、運動の楽しさを味わいながら、『もっとやりたい。次はどんな工夫ができるか』というワクワク感(授業が楽しい)に繋がると考える。

また、チームで立てた作戦の練習時間をきちんと確保することで、自分たちの課題に合った練習方法やルールを選択等が容易にできるようになってくるのではないかと考える。

本学級の児童が、この時期にプレルボールを学習することで、個人の技能を高めるだけでなく、課題解決のための練習方法を考えたり、集団戦術の楽しさを味わったりすることができるように考える。また、中学校での球技：ネット型の学習に繋がっていくとも考え本単元を設定した。

3. 教材の系統



III 単元の目標

【関心・意欲・態度】

- プレルボールに関心を持ち、進んで運動に取り組むことができる。
- ルールを守り、友達と協力して練習やゲームをしたりすることができる。
- 場や用具の安全に気を配り、自分の役割をしっかりと果たすことができる。

【思考・判断】

- プレルボールの行い方を知り、クラスの実態に合ったルール等を選択することができる。
- チームの特徴に応じた攻め方を知り、自分のチームに適した攻防の作戦を立てることができる。

【技能】

- 簡易化されたゲームに於いて、チームの連係による攻撃や守備によって、攻防することができる。

IV 評価規準

【関・意・態】

- ①プレルボールに関心を持ち、練習やゲームに進んで取り組もうとしている。
- ②ルールやマナーを守り、友達と協力して練習やゲームをしようとしている。
- ③用具の準備や後片付けで、分担した役割をしっかりと果たそうとしている。
- ④練習やゲームをする場の整備をしたり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。

【思考・判断】

- ①プレルボールの行い方が分かる。
- ②クラスやチームの実態に合ったルールを選んでいる。
- ③チームの特徴に応じた攻め方を知り、自分のチームに適した効果的な攻防の作戦を立てている。

【技能】

- ①ボールの方向に体を向け、素早く移動し味方にプレルしたり、相手コートにアタックしたりすることができる。
- ②ボールの落下点を予想して移動し、ボールを受けることができる。
- ③チームの連係により、味方が受けやすいボールを繋いだり、攻撃しやすい場所に移動したりすることができる。
- ④自陣のコート中央付近から相手のコートに向けて、ゲームが続くようなサービスを入れることができる。

V 支援の方針

【単元を通して】

- *チームは6つ。それぞれのチームが、意欲面・技能面でできるだけ均等になるように編成す

る。

- * 基本的な動きを身につけさせるために、時間の始めにドリルゲームを効率よく取り入れる。
- * チームで協力して取り組んだり自分の特徴に合った関わりができるようにするために、リーダー、用具係、練習係など一人一人の役割を決めて取り組ませる。
- * 一人一人がボールに触れる時間の多く取るために、ドリル・タスクは、ハーフコートを使い運動量を確保する。
- * あらゆる面から児童ののびやがんばりを実感できるようにするために、ドリルやタスクの記録も蓄積できるようにワークシートを工夫する。
- * 自分から発言できないと感じている児童や意見が取り消されると感じる児童が多いことから、グループでの話し合いは、互いの意見を尊重しあいながら話しあえるように、丁寧に声掛けを行う。
- * 教師が、一人一人の頑張りや上達を賞賛したり、課題点の指摘をしたりするために、振り返りカードのコメントを効果的に活用する。
- * 話し合いが苦手な児童に対して、友達と同じような意見でも、「〇さんと同じで…」という表現を用いて積極的に発言ができるように声掛けを行う。
- * できる喜びを多く味わえるようにするために、児童の技能の向上に応じてネットの高さを変えていく。

【展開の過程】

- * タスク及びドリルでは、同じ技能の練習でありながらも、時間毎にねらいをアップさせ、単位時間のメインゲーム及び Usune's cup 2015 の試合で生かせるようにする。
- * 動きが理解できない児童には、約束練習を取り入れることで動きのコツを体得させる。
- * 運動が苦手と感じる児童に対しては
 - ① ボール操作のコツをつかませるために、ドリル時のボールは一番軽いものにする。
 - ② ボールの方向に体を素早く移動できるようにしたり、動きのタイミングをつかませたりするために、練習の時にもしっかりと声出しをさせる。また、教師が移動しながら、声がよく出ているチームを賞賛する。
 - ③ 作戦による動きを理解しやすくするために、床に目印をおいたり付けたりする。

【まとめの過程】

- * 技能の習得だけ " Usune's cup 2015 " を開催する。ルールの工夫及びチームでの協力を図るために児童による大会の企画・運営を行う。
- * 児童の実態から、技能の習得や勝敗だけに目を向けさせるのではなく、作戦チャンピオン、応援チャンピオン等、運動することや参加することが楽しいと感じられるような工夫を取り入れる。

VI 授業中における生徒指導

< 多面的な生徒理解の充実 >

教師自身が、一人一人の発言やつぶやきを共感的に受け止め、子どもたち一人一人のよさを個々にフィードバックしていくように心掛ける。

< 自己存在感や自己決定の場を与える工夫 >

チーム毎の話し合いの場や個々のアドバイスタイムを設定することで、自分にあった練習方法や場の選択ができるように努める。

< 共感的な理解ができる学級づくりの推進 >

児童の振り返りカードの記述を全体の場でフィードバックすることにより、自分の考えを積極的に発言したり、友達の発言を受け止めたりできる雰囲気を作る。

Ⅶ 指導計画 (全9時間計画 本時は6時間目)

過程	時間	学 習 活 動	支 援 及 び 留 意 点	評価項目(観点:方法)
I	1	【ねらい】フレルボールを知り、意欲的に参加できる。 ・オリエンテーション 練習での約束を確認する。 学習カードの書き方を知る。 ・ドリル フレルパス 自陣のコートにワンバウンドさせて相手に返球する。	・全ての児童が安心して学習に取り組めるように、簡潔に説明をする。 ・約束ごと(ルール)が徹底できるように言葉掛けを工夫する。→視覚支援 ・お互いにフレルすることに慣れていないため、相手を考えてフレルするようにさせる。	③用具の準備や後片付けで、分担した役割をしっかり果たそうとしている。(関:観察) ①フレルボールの行い方が分かる。(思:観察、ワークシート)
	2	【ねらい】2キャッチ ターゲット アタックのルールが分かり、チームで協力してゲームができる。 活動1 ・ドリル フレルパス(2) 三角パス(5) ・タスク① 2キャッチ ターゲットアタック 活動2 ・メイン 2キャッチ アタックフレルボール 攻撃を工夫して、得点を取ることができる。	・パスが続くために、どうすればよいか考えさせ、よく続くペアをみんなに紹介する。 ・キャッチする意味をきちんと理解させる。 ・ボールの方向に素早く体をむけるように声を掛ける。上手にできている児童を賞賛する。(お手本に見せる)	①フレルボールに関心を持ち、練習やゲームに進んで取り組もうとしている。(関:観察、ワークシート)
	3	【ねらい】2キャッチ ターゲット アタックで、アタッカーがネット際に移動しながらアタックすることができる。 活動1 ・ドリル フレルパス(1) 三角パス(5) ・タスク① 2キャッチ ターゲットアタック 活動2 ・メイン 2キャッチ アタックフレルボール 攻撃を工夫して、得点を取ることができる。	・アタッカーがどの位置に移動すれば、アタックしやすいかグループごとに作戦を立てさせる。→一人一人が打ちやすい距離があることを伝える。 ・チームで上手くつなげるために、声を掛け合いながら練習するようにさせる。	②ボールの落下点を予想して移動し、ボールを受けることができる。(技:観察) ②クラスやチームの実態に合ったルールを選んでいる。(思:観察)
	4	【ねらい】2キャッチ アタックフレルボールで、ボールの動きに合わせて、移動したり、ねらった所にアタックすることができる。 活動1 ・ドリル フレルパス(1) 三角パス(3) ・タスク① 2キャッチ ターゲットアタック 活動2 ・メイン 2キャッチ アタックフレルボール 攻撃を工夫して、得点を取ることができる。	・どのポジションの児童も、ボールの方向に体を向けたり、移動したりできるように体重移動を考えさせる。 ・作戦ボードを使い、ねらうために、何をどう工夫すればよいか考えさせる。→デジカメを使い自分の動きを確認してもよいことを伝える。 ・できるだけ多く、一人一人に声を掛ける。	③チームの連係により、味方が受けやすいボールを繋いだり、攻撃しやすい場所に移動したりすることができる。(技:観察)
II	5	【ねらい】1キャッチ アタックフレルボールの攻撃しかたを理解し、アタックすることができる。 活動1 ・ドリル フレルパス(1) 三角パス(3) ・タスク② 1キャッチ ターゲットアタック 活動2 1キャッチ アタックフレルボール	・その児童にも理解できるように、説明は簡潔に行う。 ・1キャッチが減ったことで、どのように動くか今までのようにスムーズに動けるかを考えさせる。 ・キャッチできる回数が少なくなったので、より声を掛け合い、動き方を理解させる。 ・視覚支援が必要な児童に声を掛け、動きの確認をする。	③チームの特徴に応じた攻め方を知り、自分のチームに適した効果的な攻防の作戦を立てている。(思:観察、ワークシート)
	6 本 時	【ねらい】守備や攻撃の作戦を生かして、3回の攻撃で、ねらったところにアタックすることができる。 活動1 ・ドリル フレルパス(1) 三角パス(3) ・タスク② 1キャッチ ターゲットアタック 活動2 1キャッチ アタックフレルボール	・前時の攻撃を振り返り本時の作戦を確認させる。 ・作戦は、あくまでも仮のもので、いつでも加除修正してよいことを告げる。ただし、作戦の変化が、作戦ボードに残せるようにしておく。 ・次時につなげていくために、作戦の結果にとらわれず、なぜそうだったか(理由と根拠)を振り返らせる。	①ボールの方向に体を向け、素早く移動し味方にフレルしたり、相手コートにアタックしたりすることができる。(技:観察)
	7	【ねらい】1キャッチ アタックフレルボールで、3回の攻撃で、アタッカーが移動してアタックすることができる。 活動1 ・ドリル 三角パス(5) ・タスク② 1キャッチ ターゲットアタック 活動2 1キャッチ アタックフレルボール	・相手の攻撃に素早く対応するためのコツ(定位置に戻る)ことに目を向けさせる。 ・相手のスペースにアタックするために、どのような練習や作戦が必要か考えさせる。 ・思うように動けない児童には、基本の動き(素早くボールの正面に入る。力を入れすぎない。)などをアドバイスしてまわる。	③チームの連係により、味方が受けやすいボールを繋いだり、攻撃しやすい場所に移動したりすることができる。(技:観察)
	8	【ねらい】1キャッチ アタックフレルボールで、チーム毎に立てた作戦を使い、攻撃することができる。 活動1 ・ドリル 三角パス(5) ・タスク② 1キャッチ ターゲットアタック 活動2 1キャッチ アタックフレルボール	・上手く攻撃ができてきたチームには、レシーバーがアタッカーを選択できるように声を掛ける。 ・上手くまわらないチームには、アタックを決めためには、どこに打ち込むとよいか、もう一度話し合わせる。 ・点を取りに行くことにはしらないように声を掛ける。	④自陣のコート中央付近から相手のコートに向けて、ゲームが続くようなサービスを入れることができる。(技:観察)
まとめ	9	" Usune's cup 2015 " 【ねらい】チームで協力して、楽しくゲームをすることができる。	・大会リーダーを中心に、協力して大会が運営できるように声を掛けて回る。 ・児童の手が足りない部分を、補助する。	②ルールやマナーを守り友達と協力して練習やゲームをしようとしている。(関:観察)

Ⅷ 本時の学習 (6/9時間目)

- 1 ねらい 守備や攻撃の作戦を生かして、3回の攻撃で、ねらったところにアタックすることができる。
- 2 準備 教師：簡易ネット、カラーコーン、ボール、得点板
児童：学習カード入れ（作戦ボード、学習カード、ビブス、付箋 等）
- 3 展開

○おおむね満足できる状態

過程	学 習 活 動	時間	支援・指導上の留意点	評価項目 (方法)
つ か む	<p>*準備：決められた準備をチームごとに協力して行う。</p> <p>1. 本時のめあてを知る。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">守備や攻撃の作戦を立て、ねらったところにアタックできるようにしよう。</p>	5分	<p>*音楽をかけ、準備の様子を見守る。 → 必要に応じて声掛けや促しを行う。</p> <p>・本時のめあてを伝え、今日の活動内容の確認をする。</p>	
活 動 1	<p>2. ドリルゲーム (プレルパス①、三角パス③)</p> <p>3. タスクゲーム (1キャッチ ターゲットアタックゲーム) 【予想される児童の作戦】 a アタッカーがネット際に移動する。 b センターからアタックする。 c ネット際に落とすために、キャッチのボールをネット際にあげる。 d アタックをクロスで打ち、コート隅をねらう。</p>	15分	<p>・ドリルは、アップ代わりとするためテンポよく行わせる。</p> <p>・ドリルの記録をメモさせる。</p> <p>・前時の攻撃を振り返り本時の作戦を確認させる。</p> <p>・作戦は、あくまでも仮のもので、いつでも加除修正してよいことを告げる。作戦を変更するときは、新しい作戦用紙に簡単にメモさせる。</p>	
活 動 2	<p>4. メインゲーム (1キャッチ アタックプレルボール)</p> <p style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">3回の攻撃で、ねらったところにアタックしよう！</p> <p>【予想させる児童の動きや発言】 ○アタックが上手くいった。もっと強いボールを打とう。 ○チームのみんなが声を掛けてくれたから上手くできたよ。 ○キャッチをあわてないと上手くいくね。 △相手と同じ作戦だと、上手くいかないな。 △ねらったところに行かないのはどうして？ △相手チームの作戦も、得点がとれていいよね。どうやったらいいかな。 △上手くねらうためには、ボールの高さを考えて上げるよう。(アタックしやれボール)</p>	20分	<p>・試合時間は7分作戦タイム2分それを2 Set 行う。(3対3での試合)</p> <p>・試合後、作戦タイムを設け、作戦の加除修正や声掛けの確認を行う。</p> <p>・声がよく出ている、カバーしあっている等、個々のよさやグループのよさを積極的に賞賛する。</p> <p>・短時間に多くのチームをまわるために、各グループに伝えたいことを(上手くいかなかった要因)をキーワードで伝えるようにする。</p> <p>【教師の働きかけ】 *他のチームは…やっていったよ。まねしてやってみたらどうかな。 *手の向きはどうか？トスの上げ方や高さはどう？ *トスの高さを考えて、胸の高さぐらいにあげよう。</p>	①ボールの方向に体を向け、素早く移動し味方にプレルしたり、相手コートにアタックしたりすることができる。(技：観察)
ま と め る	<p>5. 本時の振り返りをする。</p>	5分	<p>・次時につなげていくために、作戦の結果にとらわれず、なぜそうなったか(理由と根拠)を振り返らせる。</p> <p>・前時よりも積極的に取り組んでいた児童やチーム等を、全体で紹介し賞賛することで次時の意欲につなげる。</p> <p>・本時のめあての達成できたかを学習カードで確認する。</p>	

